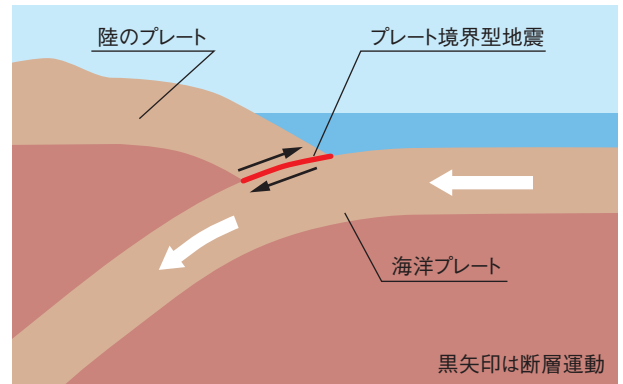


## 2 プレート境界型地震

海のプレートが陸のプレートの下に沈み込む時、陸のプレートの先端は、まき込まれ、やがて反発力によって跳ね返ります。この時プレート境界で地震が発生します。

このようなプレート境界型地震は数10年～数百年の間隔で発生しており、1923年の関東大震災や最近では1968年の十勝沖地震などのように、しばしばマグニチュード8クラスの巨大地震となることがあり、このタイプの地震は大きな津波を引き起こすことがあります。

プレート境界型地震発生のしくみ



## 3 内陸地震

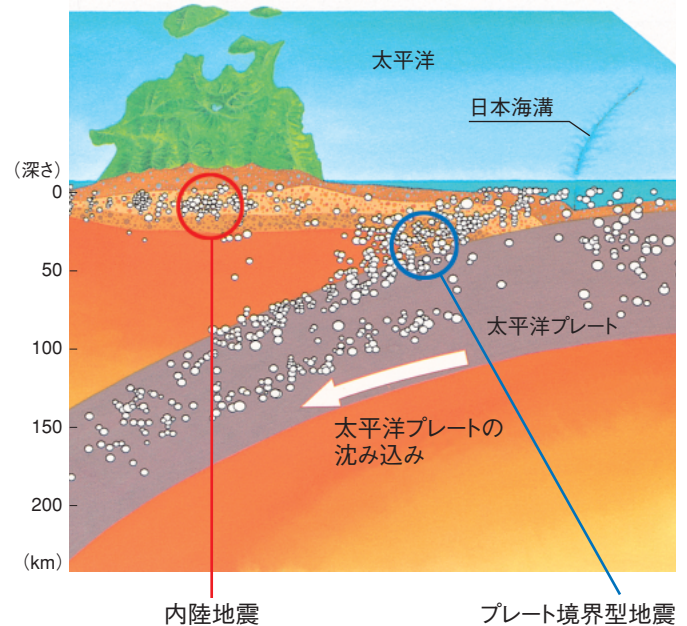
プレートのぶつかり合いで生まれた力(歪み)は、プレート境界から離れた陸のプレートの内部、つまり日本列島本体にも働き、歪みが蓄積して、限界に達した時、岩盤を破壊して地震が発生します。これが内陸地震で、このように岩盤が破壊してずれることを断層運動と言います。

内陸地震を起こす断層は地下15km～20kmよりも浅いところに生じ、地表では地形や地盤のずれとして出現しています。

内陸地震は、一般にプレート境界型地震に比べ規模が小さいのですが、地下の浅いところで発生するために大きな災害をもたらします。1995年1月17日の「阪神・淡路大震災」を引き起こした兵庫県南部地震も、このような浅いところで生じた活断層によるものです。

内陸地震を起こす断層には、下図のように、縦ずれ型の断層と横ずれ型の断層があります。

東北日本の東西断面で見る地震の分布



上2つの図は科学技術庁(1999)「地震の発生メカニズムを探る」より

